



日本習字 創立70周年

《特別企画展》

近江・聖徳太子

伝承社寺の美術

～地域に根付いた文化財たち～

南北朝時代の私



地元巡りて
タイムスリップ!

『南無仏太子像』南北朝時代 勝成親王(近江八幡市)所蔵



鎌倉時代の私



聖徳太子が
近江にゆかり?

『南無仏太子像』鎌倉時代 五層寺(東近江市)所蔵

令和5年
9/23(土)
～11/26(日)

〔前期〕9/23～10/22
〔後期〕10/24～11/26
休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

〔入館無料日〕
9/24(日)、11/2(木)、11/11(土)、11/12(日)

〔入館料〕
一般 …………… 1,500円(1,000円)
高校生・学生 …… 1,000円(500円)
小・中学生 …… 100円

※()内は割引料金です。
ホームページご利用案内の
「割引について」をご確認下さい。



《主催》
公益財団法人日本習字教育財団 観峰館
〒529-1421 滋賀県東近江市五箇荘竜田町136
TEL.0748-48-4141 FAX.0748-48-5475

《共催》
聖徳太子1400年悠久の近江魅力再発見委員会



近江の聖徳太子

《後援》
滋賀県、東近江市、近江八幡市、竜王町、日野町、
京都新聞、中日新聞社、読売新聞大津支局、
毎日新聞大津支局、NHK大津放送局

書の文化にふれる博物館
観 峰 館

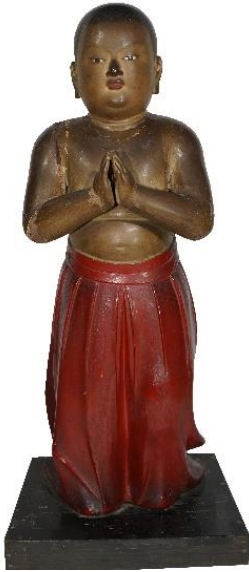
滋賀県東近江地域が、聖徳太子（574～622）ゆかりの場所であり、その開基伝承を持つ社寺が多く存在していることをご存じでしょうか。

太子信仰は、鎌倉時代以降、南無仏太子像などの造立からも隆盛したことがうかがえますが、やがて戦国時代の戦乱の災禍によって荒廃していきます。しかしながら、江戸時代以後の復興にあたり、ふたたび太子信仰が注目され、それに関わる書画芸術が生まれました。

聖徳太子 1400 年遠忌の最後を飾る本展は、地域の社寺で大切に守り伝えられた名品の数々や、これまで門外不出であった書画芸術全 54 作品を一堂に展示します。

主要出品作品（解説）※全出品作品は、別紙「**展示出品リスト**」をご参照ください。

①、南無仏太子像（二歳像） 鎌倉時代（14 世紀） 瓦屋寺（東近江市）所蔵



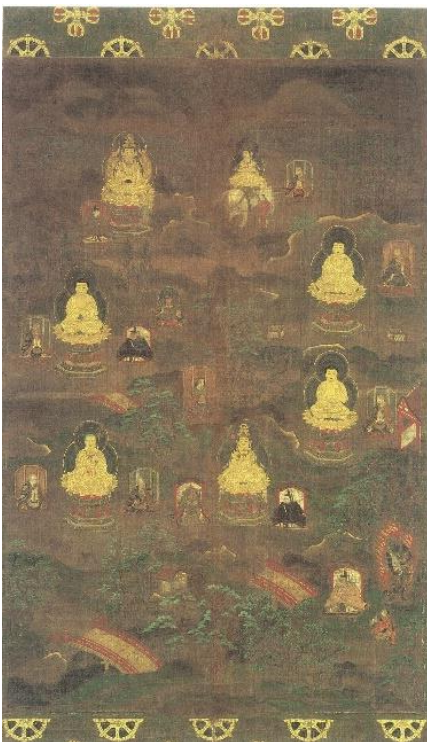
聖徳太子の伝記資料として最古である「聖徳太子伝暦」には、太子が二歳時に、東に向かい合掌して南無仏と称えたとあり、その姿を写した南無仏像が多く制作された。この像は、東近江市の古刹・瓦屋寺所蔵のもので、本展で公開後、秘仏として閉扉される予定。

②、**重要文化財** 勢至菩薩像 中国・元時代（13 世紀）
長命寺（近江八幡市）所蔵

勢至菩薩は、本来、阿弥陀如来の脇侍として、知恵の光で一切を照らし諸々の苦難から生あるもの全てを救う存在として信仰の対象となった。この作品は、中国・元時代に制作された名品で、西国三十三所札所の古刹・長命寺に伝来したもの。



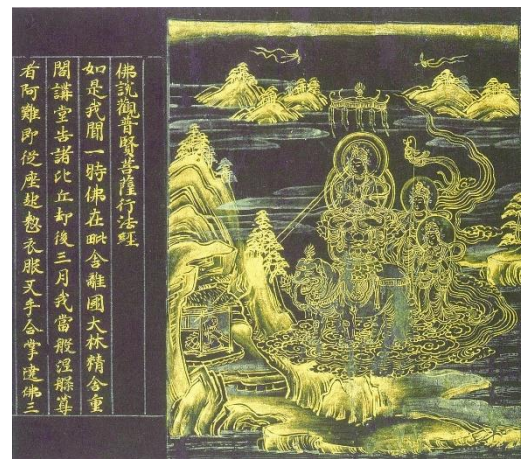
③、**重要文化財** 日吉山王神像 鎌倉時代（14 世紀） 百済寺（東近江市）所蔵



日吉山王神とは、比叡山東麓の日吉神社に鎮座する神々のことで、天台宗を開いた最澄により篤く信仰された。この図像は、天台宗の古刹・百済寺所蔵の作品で、自然の景色を背景に諸尊を描いたもの。周囲は描表装で覆われ、鎌倉時代の優品といえよう。

④、**滋賀県指定文化財** 紺紙金泥妙法蓮華経・観普賢経 平安時代（12 世紀）
百済寺（東近江市）所蔵

百済寺には、法華経（妙法蓮華経）八巻と無量義経・観普賢経が伝来する。各巻表紙には金銀泥で宝相華唐草文を描き、見返しには同じく金銀泥で、中央に釈迦説法図、後方に山岳、手前に説相図を描く。その本文は、実直な線質の筆捌きであり、平安時代の特徴をよく表している。



⑤、東照大権現像 江戸前期（17世紀） 市神神社（東近江市）所蔵



徳川家康が薨去後、神格化されて日光に神廟が築かれたことは著名であり、三代・家光が夢の中で出会った祖父の姿が絵画化され、多く信仰の対象となった。元々、家康は聖徳太子を信仰しており、大坂・夏の陣に向かう際に、法隆寺に立ち寄り、同寺は江戸時代を通じて徳川家に庇護されたという。

⑥、妙王天（弁財天）像 鎌倉時代（14世紀） 正明寺（蒲生郡日野町）所蔵

弁財天は一般的に一面八臂で描かれるが、この像は一面二臂で描かれ、その図様は胎蔵曼荼羅中に描かれているため、密教の要素が強い稀少な作例である。元の所蔵は、後水尾天皇の皇女・照山元瑤の所持品として知られている。聖徳太子は用明天皇の皇子であり、皇太子である。皇室からの崇拝も厚く、正明寺に寄進された理由には、太子所縁の寺院であることも関係して

いよう。



⑦、重要文化財 長命寺参詣曼荼羅（長命寺文書のうち） 桃山時代（16世紀）

長命寺（近江八幡市）所蔵



長命寺は太子開基伝承寺院であり、また西国第三十一番札所として、中世、近江六角氏の庇護の下栄えていたが、室町時代・永正十三年（1516）に焼失した。この曼荼羅は、長命寺再建にあたり、永正十三年以前の景観を今に伝えるもの。再興勧進に用いられたもので、その後の長命寺発展に大きく寄与した。

⑧、東近江市指定文化財 聖徳太子像

江戸時代（17世紀）

本行寺（東近江市）所蔵

浄土真宗の開祖・親鸞は、日本国の教主として太子を信仰し、太子像や太子関連の宝物の制作に力を注いでいた。この像は、江戸時代に制作されたもので、二十二歳時、父・用明天皇の病を見舞う、太子の肖像を描いたいわゆる「孝養像」である。「七高僧像」と一対となるもの。

なお本展は、他にも太子肖像を多く展示し、その変遷を辿る試みでもある。



展覧会概要

展覧会名 特別企画展「近江・聖徳太子伝承社寺の美術―地域に根付いた文化財たち―」

会 期 令和5年(2023)9月23日(土)～11月26日(日) ※56日間 休館日を含め66日間
〈前期〉9/23～10/22(休館日を含め31日間)
〈後期〉10/24～11/26(休館日を含め35日間)

時 間 9:30～17:00(入館は16:00まで)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

会 場 観峰館 新館特別展示室

入館料 一般1,500円(1,000円) 高校生・学生1,000円(500円) 小・中学生100円
※()は割引価格。対象は、HP内ご利用案内「割引について」を参照。



「ご利用案内」はこちら

主 催 公益財団法人日本習字教育財団 観峰館

共 催 聖徳太子1400年悠久の近江魅力再発見委員会

関連イベント

○オープニングセレモニー(テープカット)

日 時: 9月23日(土) 9:30～

○ギャラリートーク&ミニコンサート

日 時: 10月15日(日)

定 員: 30名(要予約、当日の入館料が必要です)

演奏者: 仲山 涼太 氏(クラシックギター奏者)

○土曜講座

① 9月30日(土) 13:30～「石馬寺の歴史を読み直す」

② 11月18日(土) 13:30～「近江の太子信仰とは何なのか？」

※いずれも定員20名(要予約、当日の入館料が必要です)

○記念講演会「東近江地域文化財の再検討」

日 時: 10月29日(日)

講 師: 和澄 浩介 氏(滋賀県立琵琶湖文化館 主任学芸員)

定 員: 50名(要予約、当日の入館料が必要です)

Web 内覧会を開催します!



展覧会の開催前日、
2023年9月22日(金)

16:00 から

YouTube でライブ配信を
行います!ぜひご視聴ください。

※ライブ配信終了後も
アーカイブをご覧ください。

展覧会担当者

公益財団法人 日本習字教育財団 観峰館 学芸員 寺前 公基(てらまえ きみもと)

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町136 TEL0748-48-4141 kampokan@nihon-shuji.or.jp